

第32回全国M式水耕技術研究大会を開催して(その2)

(社長 村井智子)

前号に引き続き10月6～7日に開催された第32回全国M式水耕技術研究大会、後半の様様です。

<パネルディスカッション>

当社は、今年の大きな目標に「活菜生活」を掲げております。その「活菜生活を売り込め」とプレゼンテーションを行い、流通業者、野菜取り扱い業者、種苗関係、生産者の方々からのご意見をいただき、M式ブランドしての価値のある野菜の販売戦略について皆様方と一緒に考えたいと計画いたしました。村井会長は、生命、健康産業としての使命ある立場から「活菜生活」に対しては

並々ならぬ思いと自信があります。プレゼンテーションは、時間も無く未消化で終わってしまいましたが、M式たより(8月号)、全国研究大会資料を見ていただければわかっていただけるものと思います。パネルディスカッションは、前当社社長であった村井信二氏の軽快なコーディネートで和やかな雰囲気の中で意見交換がされました。安全で新鮮な野菜を消費者に届けることは基本で、輸送コストをかけない、地産地消型

生産流通システムが必要であると感じました。そのためには生産者のグループ化を進め、新しい流通革命といえるシステム作りが今後の大きな課題であると思います。そして、安全な野菜づくりのための栽培技術や病害虫への対応技術の確立、新品種、新食品への開発や取り組みがより消費者への満足度を高めた、水耕野菜だからこそできる安心、新鮮、きれいな野菜で価値の高い野菜づくりにつながると確信いたしました。



<見学会>

2日目は、生産現場などを見学を行いました。当社の研究農場、研究会会長水谷様の三つ葉農場、三重県長島町なばなの里のペコニアガーデ

ンを見学し、最後に愛知県農林水産フェアの会場に行き、当社の展示(活菜・おふくろさん)や愛知県内の特産品の数々を見ていただきました。実際に目で見て自分で確かめら

れたこと、新しい情報が得られたことなどそれぞれに何かを得られたのではないかと思います。



こうして2日間の研究大会日程は無事終了したわけですが、参加していただいた皆様はどのように感じられたでしょうか?これからの進め方にも反映させたいと思いますのでどうぞ忌憚の無いご意見、ご感想をお聞かせください。

私は、参加するのも初めての経験でしたので、皆様方との出会い、ふれあいはとても貴重な時間であり刺激を受けることができました。しか

し、技術研究大会にしては、新しい技術、革新的な技術などを期待されて出席された方は少々物足りなさを感じるものではなかったかと危惧しております。ただ、時代を読み、時流をいち早くつかみとり、1歩も2歩も前へ出るための経営戦略としてのヒントは、いたるところにあったのではないかと感じております。水耕野菜を生産し、販売をしている仲間が一同に集まり、情報を共有し、

話し合うことの大切さをこれからの時代だからこそより求められると思うのです。どうぞこのような機会にぜひ皆様と話し合い、同じ方向に向かって行動できるような研究会にしていこうではありませんか。

参加された皆様方、応援していただいた方々、M式グループの皆様方、本当にありがとうございます。お互いに「元気」でがんばっていきましょう!